

女子学生の生活態度・意識の推移

野村 晶子

〔目的〕；女子学生の生活態度・意識を現時点で把握することを目的に、1986年の調査結果（日本教育心理学会第28回総会で発表し、本学家政研究でも報告している）と比較し、7年間の推移をみた。

〔方法〕；1) 調査対象…女子学生（1年次）205名（1986年度147名）。2) 調査期間…1992年10月。3) 質問紙法に依る。4) 調査項目…I. 人生観関係, II. 自己関係, III. 友人・生活関係, IV. 家庭関係, V. 学校関係, VI. 国家・社会生活関係, VII. 未来関係, VIII. 異性関係, 以上8項目を設定した。

〔結果及び考察〕

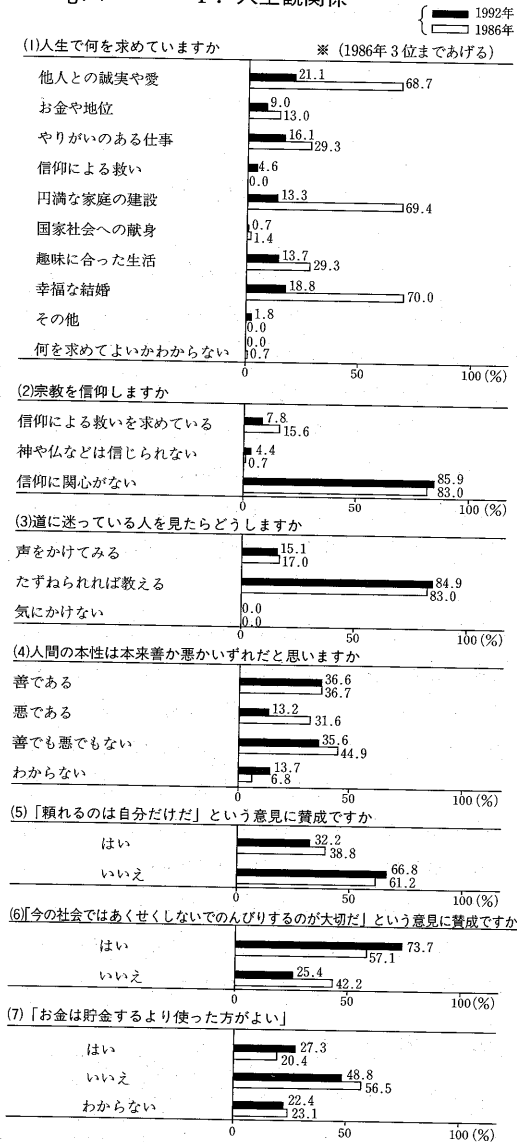
I. 人生観関係では、(Table I) Fig. 1(1)「人生で何を求めていますか」の質問に対し、1位は「他人との誠実や愛」128名（21.1%）であり、次いで「幸福な結婚」114名（18.8

%）、3位は「やりがいのある仕事」98名（16.1%）である。これに対し1986年の1位は、「幸福な結婚」、2位は「円満な家庭の建設」、3位「他人との誠実や愛」であった。本調査では3位に「やりがいのある仕事」が選ばれたことに注目したい。又、1986年の1位を占めていた「幸福な結婚」よりも「他人との誠実や愛」が選ばれ順位が逆転している。(2)「宗教、信仰」は全く選ばれていない（無信仰）176名（85.9%）。変容はみられなかった。(3)「道を尋ねられた時どうしますか」に対し「頼まれば教える」174名（84.9%）で他人への思いやりは消極的であり、7年間の変容はみられない。(4)「人間の本性は善である」75名（36.6%）次いで「善でも悪でもない」73名（35.6%）で、1986年の1位と逆転しているが、ややPositiveな見方をしている。(5)「頼れるものは自分だけ」ではない137名（66.8%）と人間関係の大切さを認知している。(6)「今

(Table. I) I. 人生観関係 N=205, ()内1986…N=147

	N	% (N	% 順位)		N	% (N	% 順位)
(1) 人生で何を求めていますか				(4) 人間の本性は本来善か悪かいずれだと思いますか。			
他人との誠実や愛	128	21.1 (101	68.7 3)	善である	75	36.6 (54	36.7 2)
お金や地位	55	9.0 (33	13.0 5)	悪である	27	13.2 (17	31.6 3)
やりがいのある仕事	98	16.1 (43	29.3 4)	善でも悪でもない	73	35.6 (66	44.9 1)
信仰による救い	28	4.6 (0	0 ー)	わからない	28	13.7 (10	6.8 4)
円満な家庭の建設	81	13.3 (102	69.4 2)	(5) 「頼れるのは自分だけだ」という意見に賛成ですか			
国家社会への献身	4	0.7 (2	1.4 6)	はい	66	32.2 (57	38.8 2)
趣味に合った生活	83	13.7 (43	29.3 4)	いいえ	137	66.8 (90	61.2 1)
幸福な結婚	114	18.8 (103	70.1 1)	(6) 「今の社会ではあくせくしないのでんびりするのが大切だ」という意見に賛成ですか			
その他	11	1.8 (0	0 ー)	はい	151	73.7 (84	57.1 1)
何を求めてよいかわからない	0	0.0 (1	0.7 7)	いいえ	52	25.4 (62	42.2 2)
(2) 宗教を信仰しますか				(7) 「お金は貯金するより使った方がよい」			
信仰による救いを求めている	16	7.8 (23	15.6 2)	はい	56	27.3 (30	20.4 3)
神や仏などは信じられない	9	4.4 (1	0.7 3)	いいえ	100	48.8 (83	56.5 1)
信仰に関心がない	176	85.9 (122	83.0 1)	わからない	46	22.4 (34	23.1 2)
(3) 道に迷っている人を見たらどうしますか							
声をかけてみる	31	15.1 (25	17.0 2)				
たずねられれば教える	174	84.9 (122	83.0 1)				
気にかけない	0	0.0 (0	0 ー)				

Fig. 1 I. 人生観関係



の社会ではのんびりするの大切だ」151名(73.7%)と1986年(57.1%)より16%伸びている。即ち意識に変動がみられた。時代的要請とも受けとめられる。(7)「お金は貯金するより使った方がよいか」に対し、「いいえ」100名(48.8%)であるが、1986年(56.5%)より、やや下降がみられ(8%)、バブル経済崩壊に伴う意識の変動とも受けとめられる。

II. 自己関係(Table 2), Fig. 2では、(1)「自分の性格にやや不満」100名(48.8%)であり、(2)「やや内向的」60名(29.3%)、次いで「やや外向的」57名(27.8%)である。1986年は「中庸(普通)」49名(33.3%)人並みでありたい(安定感がある)であったのが、個性化(ありのままの自分を認知する態度)がみられたことになる。(3)又、女子学生は「自分の話し好き」63.9%を認めているし、1986年よりその傾向がやや強くなっている。(4)「自分の意志は強い」43.9%と1986年33.4%よりやや高くなっている。(5)「自分の人柄は未だ魅力的」とは言えない(43.0%)状態で、普通111名(54.1%)と回答し、1986年と大差はみられない。(6)「人間として他の人と比較すると劣等感がある」31.4%で、約1/3の者に自信がみられない状態であるが、半数以上の者は「普通」と回答している。59.5%(1986年72.8%)。わずかながらも自己意識に分化(中庸志向からの)がみられたようである。(7)「進学、就職、結婚等の重要な問題」は、1位「友達に話す」63名(31.0%)、次いで両親53名(26.0%)と、青年期特有のアンビバレントな状態を示してはいるが、1986年(29.3%)より友達志向が、わずかながらも上昇している。(8)「特に理想とする人物、愛好する作家、芸術家」は「両親」をあげた者は21名(10.2%)であるが、「オードリー・ヘップバーン」5名(2.4%)もあり、当時のトピックスに左右される傾向もみられる。本調査では、「小和田雅子様」1990年では「川嶋紀子様」、1986年年では「山口百恵」もあげられている。(9)「休日をもどのように過ごすか」に対し、1位は、「ラジオ、テレビ」27名(13.1%)、2位は「町をぶらつく」25名(12.1%)、3位は「音楽」16名(17.8%)であるが、順序の逆転はあるものの1986年にも選ばれている。ただし、今回は、1986年の「スポーツ」23名(15.6%)と、「何もせずぶらぶらしている」18名(12.2%)、と、2

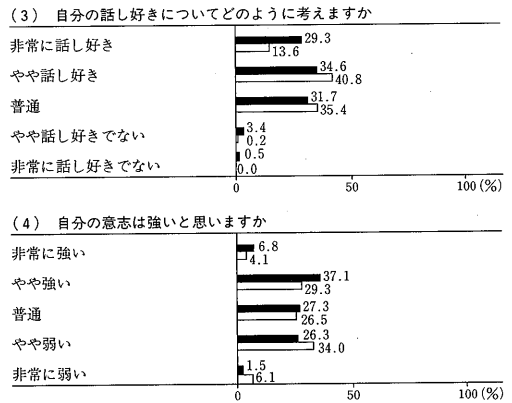
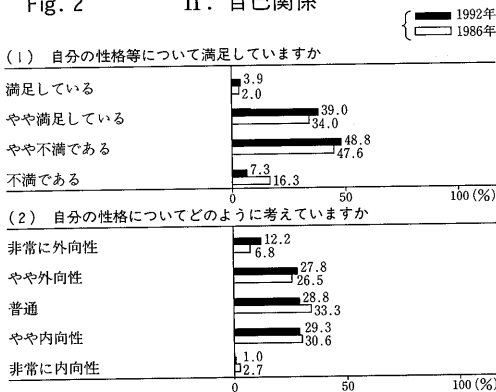
%前後に下り、本調査では、アルバイト15名(7.3%)が浮上してきたことに特に注目したい。人生観の項目にみたように女子学生は仕事を志向している。また、「小旅行」、「読書」

「造形・美術」は皆無となった。受け身的になり、個性(価値観)、創造性とは結びつかないようである。

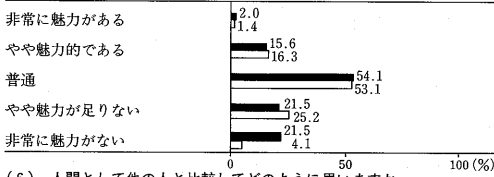
(Table. 2) II. 自己関係 N=205, ()内1986...N=147

	N	% (N % 順位)		N	% (N % 順位)
(1) 自分の性格等について満足していますか			(7) 進学, 就職, 結婚等, 重要な問題は誰に相談しますか		
満足している	8	3.9 (3 2.0 4)	母親	44	21.0 (38 25.9 3)
やや満足している	80	39.0 (50 34.0 2)	友達	63	31.0 (43 29.3 2)
やや不満である	100	48.8 (70 47.6 1)	父親	4	2.0 (1 0.7 6)
不満である	15	7.3 (24 16.3 3)	両親	53	26.0 (46 31.3 1)
(2) 自分の性格についてどのように考えていますか			先生(カウンセラー)	2	0.9 (4 2.7 5)
非常に外向性である	25	12.2 (10 6.8 4)	姉・兄	9	4.4 (6 4.1 4)
やや外向性である	57	27.7 (39 26.5 3)	先輩	2	0.9 (1 0.7 6)
普通(いずれでもない)	59	28.8 (49 33.3 1)	おばさん	0	0.0 (1 0.7 6)
やや内向性である	60	29.3 (45 30.6 2)	恋人	9	4.0 (1 0.7 6)
非常に内向性である	2	1.0 (4 2.7 5)	(8) 特に理想とする人物, 愛好する作家・芸術家等をあげなさい		
(3) 自分の話し好きについてどのように考えますか			オードリー・ヘップバーン	5	2.4 (0 0.0)
非常に話し好きである	60	29.3 (20 13.6 3)	黒柳哲子	0	0.0 (1 0.7)
やや話し好きである	71	34.6 (60 40.8 1)	山口百恵	0	0.0 (3 2.0)
普通	65	31.7 (52 35.4 2)	両親	21	10.2 (8 5.4)
やや話し好きでない	7	3.4 (15 0.2 4)	佐藤愛子	0	0.0 (2 1.3)
話すことは非常に嫌いである	1	0.5 (0 0 -)	ショパン	0	0.0 (2 1.3)
(4) 自分の意志は強いと思いますか			いわさきちひろ	0	0.0 (2 1.3)
非常に強い	14	6.8 (6 4.1 5)	三浦綾子	0	0.0 (3 2.0)
やや強い	76	37.1 (43 29.3 2)	S・ワンダー	2	0.9 (2 1.3)
普通	56	27.3 (39 26.5 3)	赤川次郎	1	0.5 (2 1.3)
やや弱い	54	26.3 (50 34.0 1)	アガサ・クリスティー	2	0.9 (1 0.7)
非常に弱い	3	1.5 (9 6.1 4)	(9) 休日をどのように過ごすことが多いですか		
(5) 自分の人柄は魅力があると思いますか			スポーツ	2	0.9 (23 15.6 7)
非常に魅力がある	4	2.0 (2 1.4 5)	映画・演劇等を見る	4	1.9 (26 17.7 6)
やや魅力的である	32	15.6 (24 16.3 3)	ラジオ・テレビ	27	13.1 (72 49.0 3)
普通	111	54.1 (78 53.1 1)	読書	0	0.0 (13 8.8 9)
やや魅力が足りない	44	21.5 (37 25.2 2)	音楽	16	7.8 (81 55.1 2)
非常に魅力がない	12	5.9 (6 4.1 4)	町をぶらつく	25	12.1 (112 76.2 1)
(6) 人間として他の人と比較してどのように思いますか			小旅行	0	0.0 (6 4.1 10)
非常に優越感をもっている	2	1.0 (0 0 -)	勉強する	4	1.9 (4 2.7 11)
やや優越感をもっている	12	5.9 (7 4.8)	家族の者とともに過ごす	10	4.9 (28 19.0 5)
普通	122	59.5 (104 72.8 1)	造形・美術	0	0.0 (2 1.4 12)
やや劣等感をもっている	54	26.3 (31 24.1 2)	室内遊戯	4	1.9 (1 0.7 13)
非常に劣等感をもっている	10	4.9 (2 1.4 4)	けいごと	1	0.5 (1 0.7 13)
			何もせずぶらぶらしている	5	2.4 (18 12.2 8)
			その他	5	2.4 (34 23.1 4)
			アルバイト	15	7.3 (0 0.0)

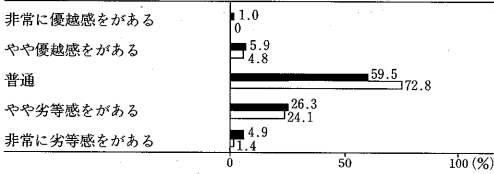
Fig. 2 II. 自己関係



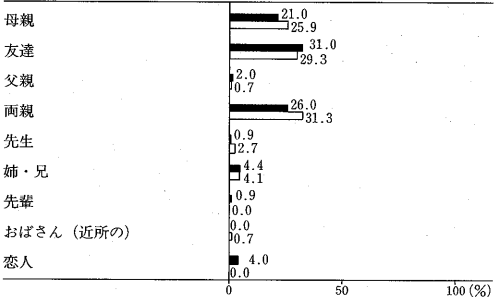
(5) 自分の人柄は魅力があると思いますか



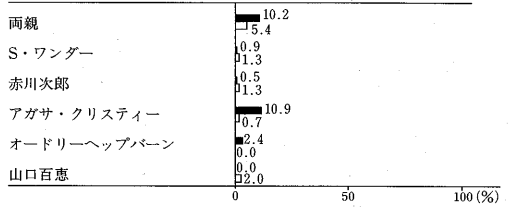
(6) 人間として他の人と比較してどのように思いますか



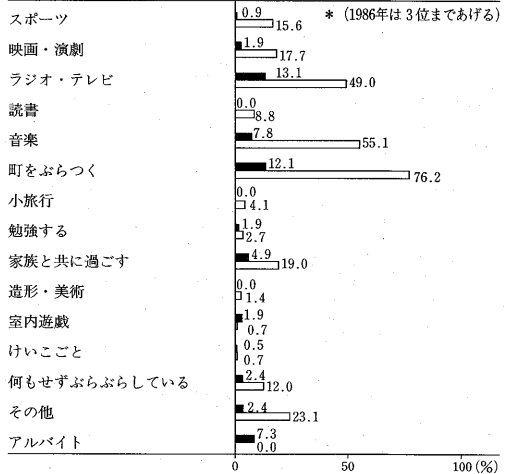
(7) 進学、就職、結婚等の重要な問題は誰に相談しますか



(8) 特に理想とする人物、愛好する作家・芸術家等をあげなさい



(9) 休日をどのように過ごすことが多いですか



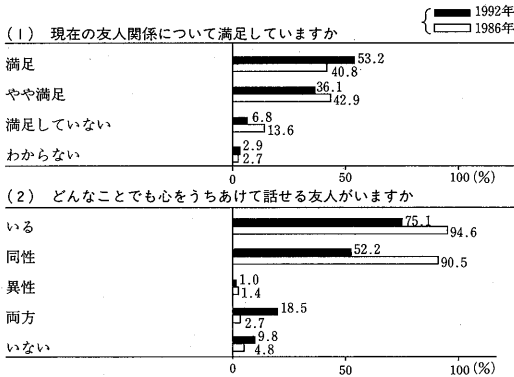
III. 友人・生活関係；(Table 3), Fig. 3 では、(1)「現在の友人関係に満足している」109名(53.2%)、「やや満足」74名(36.1%)で、安定している(変化がみられない)。(2)「心をうち明けて話せる友達」は「いる」154名(75.1%)で「同性」107名(52.2%)であった。1986年は「同性」133名(90.5%)であったのが、本調査では、両方42名(18.5%)に分散し(1986年4名2.7%)はじめている。即ち、友人関係(相手)は変容の傾向が出ている。(3)「友達づ

き合い」は「深くつき合った方がよい」175名(85.4%)である。(4)「友人との雑談」は、1位は「恋愛や異性等について」179名(87.0%)、2位は「学業、職業、友人等」170名(82.6%)、3位は、「趣味、娯楽等」119名(58.5%)、2位、3位の順位は逆転してはいるが、1986年でもこの項目は選ばれている。これに反し、政治、経済、人生、哲学論などは、話されないようである。身近な話題に終止している。

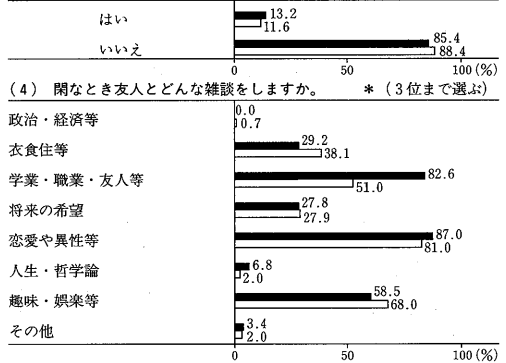
(Table. 3) III. 友人・生活関係 N=205, ()内1986...N=147

	N	% (N % 順位)		N	% (N % 順位)
(1) 現在の友人関係について満足していますか			(3) 「友達づきあいは深入りしない方がよい」		
満足している	109	53.2 (60 40.8 2)	はい	27	13.2 (17 11.6)
やや満足している	74	36.1 (63 42.9 1)	いいえ	175	85.4 (130 88.4)
満足していない	14	6.8 (20 13.6 3)	(4) 閑なとき友人とどんな雑談をしますか。		
わからない	6	2.9 (4 2.7 4)	政治・経済等について	1	0.0 (1 0.7 8)
(2) どんなことでも心をうち明けて話せる友人がいますか			衣食住等について	60	29.2 (56 38.1 4)
いる	154	75.1 (139 94.6 1)	学業・職業・友人等について	170	82.6 (85 57.8 3)
同性	107	52.2 (133 90.5 2)	将来の希望	57	27.8 (41 27.9 5)
異性	3	1.0 (2 1.4 5)	恋愛や異性等について	179	87.0 (119 81.0 1)
両方	42	18.5 (4 2.7 4)	人生・哲学論	14	6.8 (3 2.0 6)
いない	20	9.8 (7 4.8 3)	趣味・娯楽等	119	58.5 (100 68.0 2)
			その他	7	3.4 (3 2.0 6)

Fig. 3 III友人・生活関係



(3) 「友達づきあいは深入りしない方がよい」



IV. 家庭関係； (Table 4), Fig. 4, (1)「現在の家庭に満足していますか」に対し、83.5%の者が満足と回答し、(「やや満足、122名、満足」46名) 7年間での変容は無く、女子学生は、家庭に満足している。(2)「家族についてどのように考えていますか」、については、まず、父親の愛情…厳しいなかにも人生の本当の愛を教えてくれる (Positive)。普段、口に出さないが心配してくれている。(Positive)。形にならないが良い (Positive)。もっと話したい。もう少し優しくして欲しい (negative)。姉への愛情の方が強いように思われる (negative)。の記述であった。母の愛情…何も言わなくてもよく理解してくれている (Positive)。愛情を持っていてくれるので感謝している (Positive)。過保護すぎる位、愛してくれている (Positive)。よく考えていてくれる (Positive)。優しい人 (Positive)。神経質で心配が多い (negative)。その他の家族の愛情…いつもお互い行き来して仲が良い (Positive)。時にはケンカしても、よく考えてくれている (Positive)。妹は、姉の私を尊敬している (Positive)。兄弟としてわかり合っているので満足している (Positive)。姉は、

潔癖症で、妹はおとなしい。全体の間人間関係…皆、平等に、個人の意見、行動を尊重している (Positive)。心を割って何でも話せる (Positive)。うまく行っている (Positive)。仲が良い (Positive)。まとまっていない (Negative)。即ち、女子学生の家族関係には、Positiveな要因が多く、好ましい状態があげられたが、母親に対してよりも父親への記述が少ない。又、Negativeな要因も記述はされているが、これは個人のPersonality要因に基づくものではあるが、建設的な意見と受け止めてよいであろう。(3)「親の考え方や生き方のくいちがいがあるのか」に対し、「いくらかあるが気にしない131名 (63.9%)。で「くいちがいがある」は4名 (23.9%)であった。この結果は1986年から変容は無いとみてよいであろう。(4)「隣近所との交流」は、「ある」134名 (65.4%)で、1986年より9.4%減少している。(5)「家庭の収入は十分と思えますか」に対し、十分137名 (66.8%)で、1986年より7.6%増加している。(6)お母さんをどのようにしてあげたいですか」に対し、1位「もっと趣味や楽しみを持ってもらいたい」137名 (22.2%)。2位「母が歳を取ってからも、も

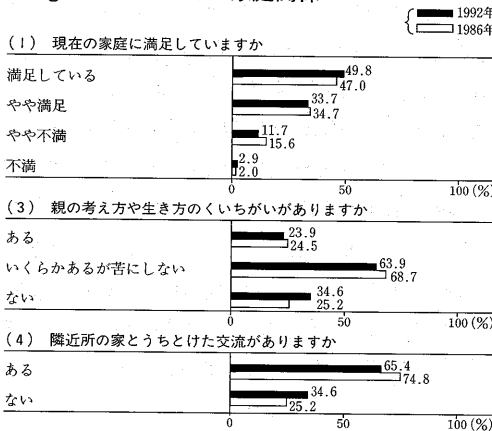
っと一緒にいてあげたい」127名 (20.6%)。3位「家族皆がもっと母を理解してほしい」71名(11.5%)。と、優しき、いたわりを持っている。(7)「両親その他に反抗を感じました

か」に対し、「やや反抗を感じた」99名 (48.2%)。「強い反抗を感じた」56名 (27.3%)。と、青年期独特の現象を強弱の差はあるものの75.5%の者が持ったようである。

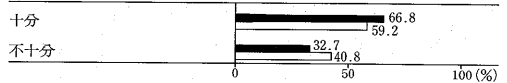
(Table. 4)IV. 家庭関係 N=205, ()内1986…N=147

	N	% (N % 順位)		N	% (N % 順位)
(1) 現在の家庭に満足していますか			(3) 親の考え方や生き方のくいちがひがありますか		
満足している	102	49.8 (69 47.0 1)	ある	49	23.9 (36 24.5 2)
やや満足している	69	33.7 (51 34.7 2)	いくらかあるが苦にしない	131	63.9 (101 68.7 1)
やや不満である	24	11.7 (23 15.6 3)	ない	25	12.2 (10 6.8 3)
不満である	6	2.9 (3 2.0 4)	(4) 隣近所の家とうちとけた交流がありますか		
(2) 家族についてどのように考えていますか			ある	134	65.4 (110 74.8)
父の愛情			ない	71	34.6 (37 25.2)
厳しいなかに人間のほんとうの愛を教えてください (P)			(5) 家庭の収入は十分と思えますか		
形にならないけれど良いと思っている (P)			十分	137	66.8 (87 59.2)
比べると私より姉への愛情が強いように思う (P)			不十分	67	32.7 (60 40.8)
普段口には出さないが心配してくれている (P)			(6) お母さんをどのようにしてあげたいと思えますか		
もう少し優しくして欲しい (N)			もっと趣味や楽しみを持って	137	22.2 (109 74.1 1)
もっと話したい (士)			もらいたい		
母の愛情			家族みながもっと母を理解し	71	11.5 (42 28.6 3)
何も言わなくてもよく理解してくれている			てほしい		
人並みに愛情をもってしてくれているので感謝している (P)			経済的にもっと独立させてあ	57	9.3 (32 21.8 4)
過保護すぎるくらい私のことを愛してくれている (P)			げたい		
神経質で心配が多い (N)			夫や子どもに頼るだけでなく	50	8.6 (42 28.6 3)
よく考えてしてくれている (P)			自分自身の生きる目的を持た		
優しい人 (P)			せてあげたい		
その他の家族			家ばかりにこもっていないで	48	7.8 (25 17.0 5)
いつもお互い行き来して仲が良い (P)			芸術・政治・社会問題なども		
姉は潔癖症で妹はおとなしい (士)			っと外のことに関心をもって		
時にはケンカしてもよく考えてくれている (P)			ほしい		
妹は姉である私をうやまっている (P)			母が歳をとってからも、もっ	127	20.6 (93 63.3 2)
兄弟としてわかっているので満足している (P)			と一緒にいてあげたい		
全体の人間関係			(7) 青年期に両親その他に反抗を感じましたか		
皆平等に個人の意見・行動を尊重している (P)			強い反抗を感じた	56	27.3 (41 27.9 2)
心をわって何でも話せる (P)			やや反抗を感じた	99	48.2 (82 55.8 1)
それなりにうまくいっている (P)			あまり反抗的でなかった	43	21.0 (23 15.6 3)
スムーズで仲が良い (P)			全く反抗を感じなかった	6	2.9 (1 4.2 4)
まとまっていない (N)					

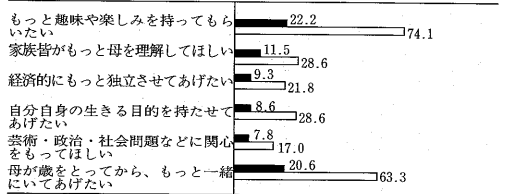
Fig. 4 IV. 家庭関係



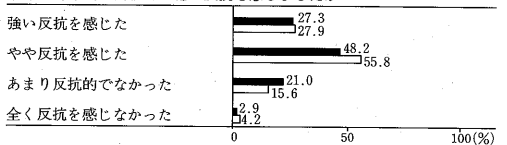
(5) 家庭の収入は十分と思えますか



(6) お母さんをどのようにしてあげたいと思えますか



(7) 青年期に両親その他に反抗を感じましたか



V. 学校関係；(Table 5), Fig. 5, …(1)「今までの学校生活に満足していますか」に対し「やや満足」122名(59.5%),「満足している」46名(22.4%)でPositiveな回答が得られた。1986年でも1位は「やや満足」85名(57.8%)であったが、やや不満は41名(27.9%)で、本調査では満足度が高くなっている。(2)「進学する主な理由は何か」に対し、1位は、「教養を身につけるため」103名(50.2%)。2位は「将来の職業生活や結婚生活を有利にするため」74名(36.1%)である。1986年でもこ

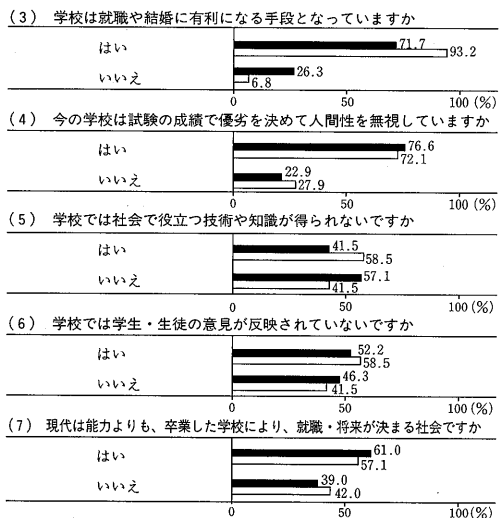
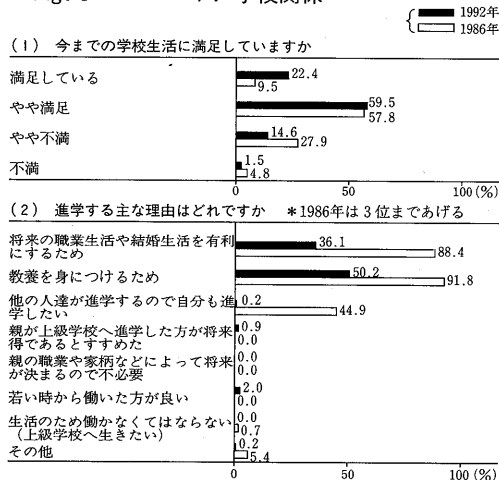
れら2項目が選ばれたが、「他の人達が進学した方が、将来、得得であるとすすめたから」が第3位、66名(44.9%)。と、主体性の無さを示す項目をあげたが、本調査では、0.2%と減少していることに注目したい。(3)「学校は就職や結婚に有利になる手段となっている」147名(71.7%)。「いいえ」26.3%(1986年6.8%)であり、約20%の者が、それら以外の目的のため進学している。(4)「今の学校では試験の成績で優劣を決めて人間性を無視していますか」に対し、「はい」は157名(76.6%)であ

(Table. 5) V. 学校関係

N=205, ()内1986…N=147

	N	% (N % 順位)		N	% (N % 順位)
(1) 今までの学校生活に満足していますか			(3) 学校は就職や結婚に有利になる手段となっていますか		
満足している	46	22.4 (14 9.5 3)	はい	147	71.7 (137 93.2)
やや満足	122	59.5 (85 57.8 1)	いいえ	54	26.3 (10 6.8)
やや不満	30	14.6 (41 27.9 2)	(4) 今の学校は試験の成績で優劣を決めて人間性を無視していますか		
不満	3	1.5 (7 4.8 4)	はい	157	76.6 (106 72.1)
(2) 進学するのは次の項目のいずれが主な理由ですか			いいえ	47	22.9 (41 27.9)
将来の職業生活や結婚生活を有利にするため	74	36.1 (130 88.4 2)	(5) 学校では社会で役立つ技術や知識が得られないですか		
教養を身につけるため	103	50.2 (135 91.8 1)	はい	85	41.5 (86 58.5)
他の人達が進学するので自分も進学したいから	5	0.2 (66 44.9 3)	いいえ	117	57.1 (61 41.5)
親が上級学校へ進学した方が将来得であるとすすめたから	8	3.9 (36 24.5 4)	(6) 学校では学生・生徒の意見が反映されていないですか		
将来は親の職業や家柄などによって決まるから進学は不必要	0	0.0 (0 0 -)	はい	107	52.2 (86 58.5)
上級学校へ行くのは時間の浪費だ、若い時から働いた方が	4	2.0 (0 0 -)	いいえ	95	46.3 (61 41.5)
良い			(7) 現代は能力よりも、卒業した学校により、就職・将来が決まる社会であるのですか		
上級学校へ生きたいが生活のため働かなくてはならない	0	0.0 (1 0.7 6)	はい	125	61.0 (84 57.1)
その他	5	0.2 (8 5.4 5)	いいえ	80	39.0 (63 42.0)

Fig. 5 V. 学校関係



った。(5)「学校では社会で役立つ技術や知識が得られないですか」に対し、「いいえ」117名(57.1%)で、1986年には「はい」86名(58.5%)であった。即ち、逆転したPositiveな回答となった。(6)「学校では学生の意見が反映されていないですか」に対し「はい」107名(52.2%)で、1986年には86名(58.5%)であり、逆転した結果となり、Negative態度になったことが示された。(7)「現代は能力よりも、卒業した学校に依り、就職や将来が決まる社会ですか」に対し、「はい」125名(61.0%)と、1986年7.1%よりも、学歴社会であることを認知している。

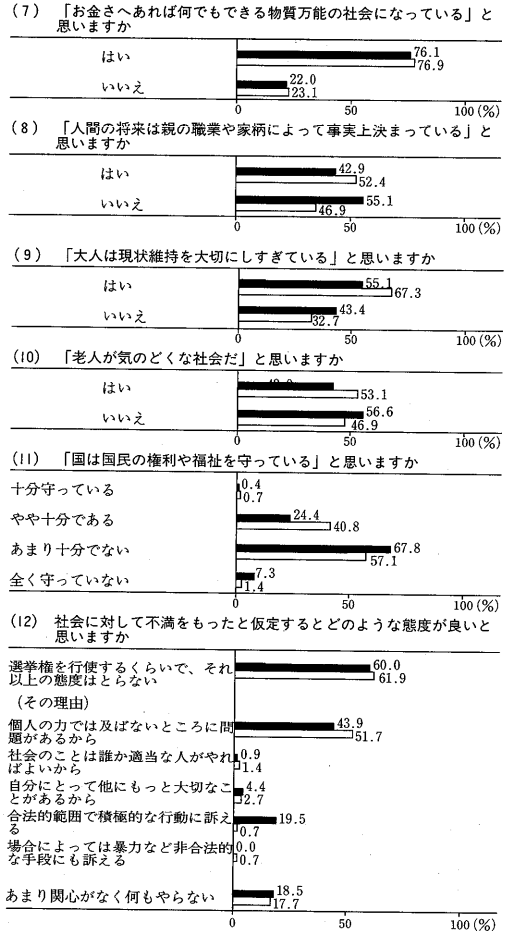
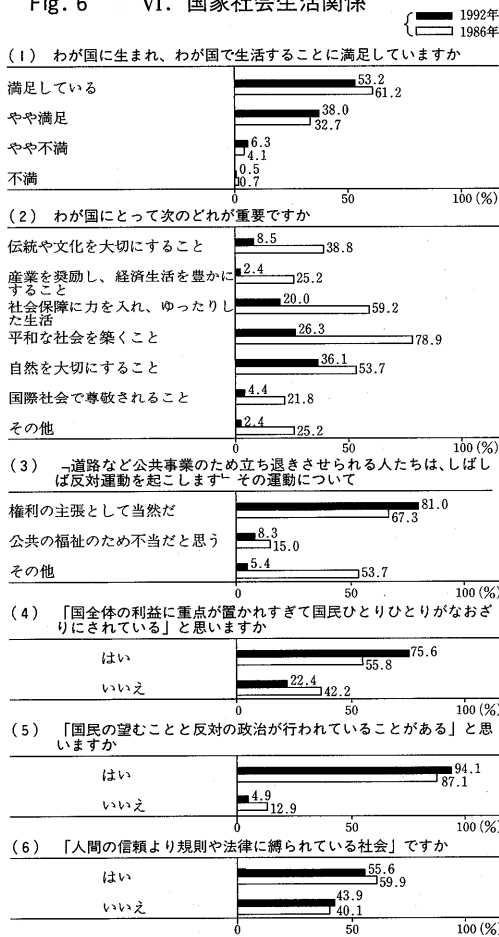
VI. 国家・社会生活関係では、(Table 6), Fig. 6, (1)「わが国に生まれ、わが国で生活するこ

とに満足していますか」に対し、満足している109名(53.2%)。やや満足77名(38.0%)と約90%の学生がPositiveな態度を示している。1986年との大差はみられない。(2)「我が国にとって次のどれが重要ですか」に対し、1位は「自然を大切にする」114名(36.1%)。2位は「平和な社会を築くこと」54名(26.3%)。3位は「社会保障に力を入れ、ゆったりした生活」41名(20.0%)。で、1986年には1位、「平和な社会」。2位、「社会保障」。3位「自然を大切にする」。と、全く順位は逆転している。さし迫った現代の社会的要請が反映されているとみてよいであろう。(3)「道路など公共事業のため、立ち退きをさせられる人達は、しばしば反対運動を起こし

(Table. 6) VI. 国家・社会生活関係 N=205, ()内1986...N=147

	N	%	(N	%	順位)		N	%	(N	%	順位)	
(1) わが国に生まれ、わが国で生活することに満足していますか。						(8) 「人間の将来は親の職業や家柄によって事実上決まっている」と思いますか						
満足している	109	53.2	(90	61.2	1)	はい	88	42.9	(77	52.4)	
やや満足	77	38.0	(48	32.7	2)	いいえ	113	55.1	(69	46.9)	
やや不満	13	6.3	(6	4.1	3)	(9) 「大人は現状維持を大切にすぎている」と思いますか	はい	113	55.1	(99	67.3)
不満	1	0.5	(1	0.7	4)	いいえ	89	43.4	(48	32.7)	
(2) わが国にとって次のどれが重要ですか						(10) 「老人が気の毒な社会だ」と思いますか	はい	86	42.0	(78	53.1)
伝統や文化を大切にすること	17	8.5	(57	38.8	4)	いいえ	116	56.6	(69	46.9)	
産業を奨励し、経済生活を豊かにすること	5	2.4	(37	25.2	5)	(11) 「国は国民の権利や福祉を守っている」と思いますか	十分守っている	1	0.4	(1	0.7	4)
社会保障に力を入れ、ゆったりした生活にすること	41	20.0	(87	59.2	2)	やや十分である	50	24.4	(60	40.8	2)	
平和な社会を築くこと	54	26.3	(116	78.9	1)	あまり十分でない	139	67.8	(84	57.1	1)	
自然を大切にすること	74	36.1	(79	53.7	3)	全くだめである	15	7.3	(2	1.4	3)	
国際社会で尊敬されること	9	4.4	(32	21.8	6)	(12) 社会に対して不満をもったと仮定するとどんな態度が良いと思いますか	選挙権を行使するくらいで、それ以上積極的な態度はとらない	123	60.0	(91	61.9	1)
その他	5	2.4	(2	1.4	7)	(その理由)	個人の力では及ばないと	91	43.9	(76	51.7	1)
(3) 「道路など公共事業のため立ち退きさせられる人たちは、しばしば反対運動を起こします」その運動について						ところに問題があるから	2	0.9	(2	1.4	5)	
権利の主張として当然だ	166	81.0	(99	67.3	1)	社会のことは誰か適当な人がやればよいから	9	4.4	(4	2.7	4)	
公共の福祉のため不当だと思う	17	8.3	(22	15.0	3)	自分にとって他にもっと大切なことがあるから	40	19.5	(29	19.7	2)	
その他	11	5.4	(24	16.3	2)	合法的範囲で積極的な行動に訴える	0	0.0	(1	0.7	6)	
(4) 「国全体の利益に重点が置かれすぎて国民ひとりひとりがなおざりにされている」と思いますか						場合によっては暴力など非合法的な手段にも訴える	38	18.5	(26	17.7	3)	
はい	155	75.6	(82	55.8)	あまり関心がなく何もやらな						
いいえ	46	22.4	(62	42.2)	い						
(5) 「国民ののぞむことと反対の政治が行なわれていることがある」と思いますか												
はい	193	94.1	(128	87.1)							
いいえ	10	4.9	(19	12.9)							
(6) 「人間の信頼より規則や法律に縛られている社会である」と思いますか												
はい	114	55.6	(88	59.9)							
いいえ	90	43.9	(59	40.1)							
(7) 「お金さえあれば何でもできる物質万能の社会になっている」と思いますか												
はい	156	76.1	(113	76.9)							
いいえ	45	22.0	(34	23.1)							

Fig. 6 VI. 国家社会生活関係



ます。その運動についてどう思いますか」に対し、「権利を主張するのは当然だ」166名(81.0%)。1986年でも99名(67.3%)。で、高いが14.3%増加している。(4)「国全体の利益に重点が置かれすぎて、国民ひとりひとりがなおざりにされていると思いますか」に対し、「はい」155名(75.6%)。で、1986年は82名(55.8%)であったが、約20%、とNegativeな回答が増加し、不満が強調されたことになる。(5)「国民の望むことと反対の政治が行われていることがあると思いますか」に対し、「はい」193名(94.1%)。と非常に強いNegativeな状態が示された。また、1986年でも87.1%を示していたことになる。女子学生の会話の中で

は政治、経済については語られることは皆無に等しいが、Negativeな意識(政治に対する)は、根強く、拡大しているとみてよいであろう。(6)「人間の信頼より規則や法律に縛られている社会ですか」に対し、「はい」114名(55.6%)。と、過半数を占めている。しかし、1986年59.9%よりも4.3%減少したことになる。この結果は、(5)を強調させるための対照的な反応であろう。(7)「お金さえあれば何でもできる物質万能の社会になっていると思いますか」に対し、「はい」156名(76.1%)。と回答し、1986年にも76.9%と、この意識は続いている。(8)「人間の将来は親の職業や家柄によって、事実上、決まっていると思いますか」

に対し、「いいえ」113名(55.1%)。と、過半数を占め、質問に対しNegativeな態度を示している。これは1986年の「はい」52.4%。と逆転する、女子学生の意志が示されたとみてよいであろう。(9)「大人は現状維持を大切にすぎていると思いますか」に対し、「はい」113名(55.1%)。であるが、1986年67.8%より12.7%減少していることに注目したい。即ち、「大人は現状維持ばかりを大切にはしない」という見方も出始めているようである。女子学生は社会情勢の激動を認知し、環境にも反応しているのである。(10)「老人が気の毒な社会だと思いますか」に対し、「いいえ」116名(56.6%)。で、1986年には「はい」53.5%で過半数を占めていたが態度は7年間で逆転している。(11)「国は国民の権利や福祉を守っていると思いますか」に対し、「あまり十分でない」139名(67.8%)。で、1986年の57.1%より、10.7%の批判がこめられ増加している。(12)「社会に対して不満を持ったと仮定すると、どのような態度が良いと思いますか」に対し、「選挙権を行使する位で、それ以上の態度はとらない」は、123名(60.0%)。で、1986年の61.9%。大差はみられない。「その理由」では、1位は「個人の力では及ばないところに問題があるから」91名(43.9%)。で、2位は「合法的な範囲で積極的な行動に訴える」40名(19.5%)。3位は「あまり関心がなく、何もやらない」38名(18.5%)。であった。

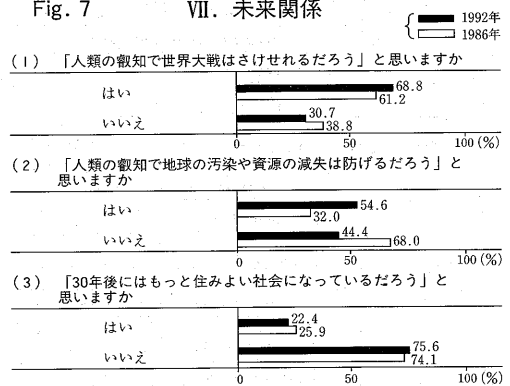
VII. 未来関係では(Table 7), Fig. 7, (1)「人類の叡知で世界大戦はさけられるだろうと思いますか」に対し、「はい」141名(68.8%)である。1986年には、61.2%で7.4%増加し、Positiveな意識を持っている。(2)「人類の叡知で地球の汚染や資源の減失は防げるだろうと思いますか」に対し、「はい」112名(54.6%)である。1986年には「いいえ」68.6%であったのが逆転している。(3)「30年後にはもっと住みよい社会になっているだろうと思いますか」

に対し、「はい」155名(75.6%)である。1986年にも74.1%と同じ意識を持っていたことになる。

(Table. 7)VII. 未来関係 N=205, ()内1986…N=147

	N	%	(N)	%	順位
(1) 「人類の叡知で世界大戦はさけられるだろう」と思いますか					
はい	141	68.8	(90)	61.2	
いいえ	63	30.7	(57)	38.8	
(2) 「人類の叡知で地球の汚染や資源の減失は防げるだろう」と思いますか。					
はい	112	54.6	(47)	32.0	
いいえ	91	44.4	(100)	68.0	
(3) 「30年後にはもっと住みよい社会になっているだろう」と思いますか					
はい	46	22.4	(38)	25.9	
いいえ	155	75.6	(109)	74.1	

Fig. 7 VII. 未来関係



VIII. 異性関係 (Table 8) Fig. 8では、(1)「結婚について、見合い結婚と恋愛結婚と、どちらが望ましいですか」に対し、「恋愛結婚」154名(75.1%)。で、1986年にも64.6%で、同じ傾向を示しているが、「見合い結婚」6.8%。であったのが、本調査では、皆無となった。(2)「結婚相手を選ぶとき、次のどれを最も重要としますか」に対し、1位は「性格」88名(42.9%)。で2位は「愛情」87名(42.4%)。3位は「経済」16名(7.8%)。と、激変している。又、1986年には、1位は「愛情」78.9%。2位は「性格」72.2%。3位は「経済」69.4%。で、1位、2位の順序が逆転している。又、1986年の3位の「経済」は、重要な項目であった。本調査では、「知能」(学業成績)、「容姿」、「職業」、「家庭環境」、「純潔」、

「その他」は、皆無であった。(3)「性的変化(初期)についてどんな感じを持ちましたか」に対し、1位は「いやな感じ」50名(24.3%)。2位は「恥かしい」45名(22.0%)。3位は「予期したものが生じた」33名(16.1%)。で、Negativeな回答であった。1986年の順位も全く同じである。(4)「性的知識を主としてどんな経路で得ましたか」に対し、1位は「学校で」144名(70.0%)。2位は「雑誌」23名(11.0%)。3位は「家族から」19名(9.0%)。である。1986年にも順位は変わっていない。(5)「現在、特に愛情を感じている異性がありますか」に対し、「いる」114名(55.6%)である。(6)「結婚前の性的関係を認めますか」に対し、「愛情があればよい」142名(69.3%)。で1986年の49.0%に対し、7年間で20.3%と急激に増加している。また、「愛情がなくてもよい」3

名(1.5%)。や、「わからない」41名(20.0%)。と、倫理性を問われるもの、無知、なども含め、性的意識に大きな変革をみた。(7)「現在、純潔ですか」に対し、「純潔である」160名(78.0%)、である。1986年には95.2%であった。7年間に17.2%と急減の傾向をたどっている。(8)「結婚した場合相手の家族との同居について」は、「別居したい」が最も多く112名(54.6%)。で、1986年との差異はみられない。(9)「同性愛を感じた経験がありますか」に対し、何等かの形での同性愛は22.5%で、1986年との差異はみられなかった。(10)「結婚する場合、相手の純潔について、どのように考えますか」に対し、「ほとんど問題にしない」125名(61.0%)。で、1986年の59.2%と大差はみられなかった。又「絶対に純潔を求める」8名(3.9%)。1986年では4.8%であった。

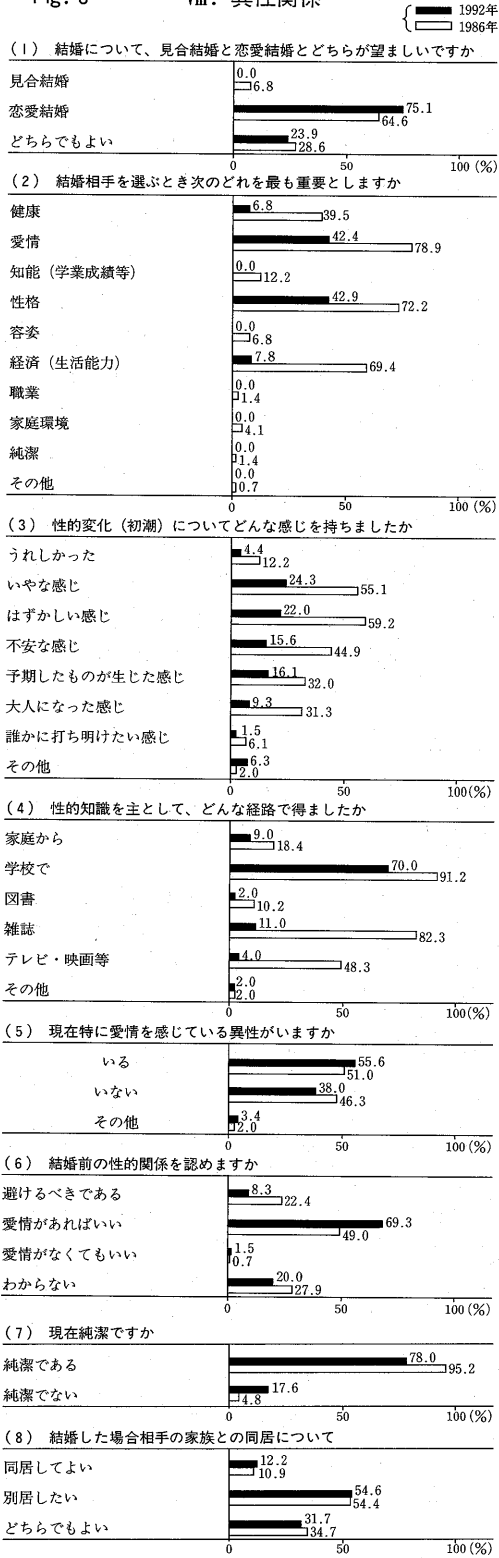
(Table. 8) VIII. 異性関係

N=205, ()内1986...N=147

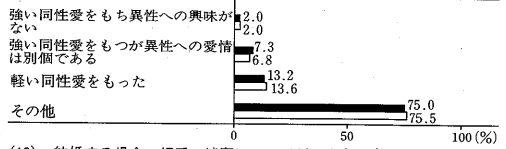
N	% (N	% 順位)	N	% (N	% 順位)				
(1) 結婚について、見合結婚と恋愛結婚とどちらが望ましいですか			(5) 現在特に愛情を感じている異性がありますか						
見合結婚	0	0.0 (10	6.8	3)	いる	114	55.6 (75	51.0	1)
恋愛結婚	154	75.1 (95	64.6	1)	いない	78	38.0 (68	46.3	2)
どちらでもよい	49	23.9 (42	28.6	2)	その他	7	3.4 (3	2.0	3)
(2) 結婚相手を選ぶとき次のどれを最も重要としますか			(6) 結婚前の性的関係を認めますか						
健康	14	6.8 (58	39.5	4)	避けるべきである	17	8.3 (33	22.4	3)
愛情	87	42.4 (116	78.9	1)	愛情があればいい	142	69.3 (72	49.0	1)
知能(学業成績等)	0	0.0 (18	12.2	5)	愛情がなくてもいい	3	1.5 (1	0.7	4)
性格	88	42.9 (107	72.2	2)	わからない	41	20.0 (41	27.9	2)
容姿	0	0.0 (10	6.8	6)	(7) 現在純潔ですか				
経済(生活能力)	16	7.8 (102	69.4	3)	純潔である	160	78.0 (140	95.2)
職業	0	0.0 (2	1.4	8)	純潔でない	36	17.6 (7	4.8)
家庭環境	0	0.0 (6	4.1	7)	(8) 結婚した場合相手の家族との同居について				
純潔	0	0.0 (2	1.4	8)	同居してよい	25	12.2 (16	10.9	3)
その他	0	0.0 (1	0.7	10)	別居したい	112	54.6 (80	54.4	1)
(3) 性的変化(初潮)についてどんな感じを持ちましたか			(9) 同性愛を感じた経験がありますか						
うれしかった	9	4.4 (18	12.2	6)	強い同性愛をもち異性への興	4	2.0 (3	2.0	4)
いやな感じ	50	24.3 (81	55.1	2)	味がない				
はずかしい感じ	45	22.0 (87	59.2	1)	強い同性愛をもつが異性への	15	7.3 (10	6.8	3)
不安な感じ	32	15.6 (66	44.9	3)	愛情は別個である				
予期したものが生じた感じ	33	16.1 (47	32.0	4)	軽い同性愛をもった	27	13.2 (20	13.6	2)
大人になった感じ	19	9.3 (46	31.3	5)	その他	154	75.0 (111	75.5	1)
誰かに打ち明けたい感じ	3	1.5 (9	6.1	7)	(10) 結婚する場合、相手の純潔についてどのように考えますか				
その他	13	6.3 (3	2.0	8)	絶対に純潔を求める	8	3.9 (7	4.8	3)
(4) 性的知識を主として、どんな経路で得ましたか					純潔であることを希望するが	69	33.7 (53	36.1	2)
家庭から	19	9.0 (27	18.4	4)	あまり拘泥しない				
学校で	144	70.0 (134	91.2	1)	純潔についてはほとんど問題	125	61.0 (87	59.2	1)
図書	5	2.0 (15	10.2	5)	にしない				
雑誌	23	11.0 (121	82.3	2)					
テレビ・映画等	9	4.0 (71	48.3	3)					
その他	5	2.0 (3	2.0	6)					

Fig. 8

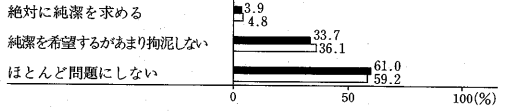
Ⅷ. 異性関係



(9) 同性愛を感じた経験がありますか



(10) 結婚する場合、相手の純潔についてどのように考えますか



【結論】；本調査では、1986年度調査に比べ、「中庸でありたい」(中庸志向)から、明確に自己を主張し、客観的(個性志向)に社会を認知する態度が養われている。親への依存から、友達への価値観の推移期間を捉えたことになる。女子学生は家族にはPositiveなみ方をしている。「国家・社会関係」、「異性関係」、に大きな意識・生活態度に変革がみられたことを指摘したい。Subjectsの今後の健全な自己同一性の確立に期待するものである。

<文献>

- 1) 野村晶子, 女子学生の生活態度・意識に関する調査結果; 家政学研究, 文教大学女子短期大学部家政科, 1985。
- 2) 野村晶子, 女子の生活態度・意識について; 日本教育心理学会第28回総合発表論文集, 日本教育心理学会, 1986。
- 3) 駒崎勉, 大学生の性行動に関する一考察; 日本教育心理学会第28回総会発表論文集, 日本教育心理学会, 1986。
- 4) 野村晶子他, 女子学生の生活態度・意識に関する調査結果(第II報); 家政研究, 文教大学女子短期大学部家政科, 1986。
- 5) 野村晶子, 青年の価値観・人生観; 「新・青年心理学(伊藤隆二, 野村晶子他)」第3章, 八千代出版, 1990。
- 6) 野村晶子, 女子学生の意識・生活態度の推移; 日本性格心理学会第2回大会発表論文集, 日本性格心理学会, 1993。